

日 時: 令和3年11月20日(土曜日) 午前9時40分～午前11時10分(90分)

場 所: 神奈川県立スポーツセンター(藤沢市)

講習内容: 「障がい者スポーツ指導者総論(コミュニケーションスキルを含む)

～その全体の内容と理解～

神奈川県障がい者スポーツ協会(KPSA) 会長

関東学院大学 名誉教授、余暇教育学・体育学博士、Ph.D.

社会福祉法人 磯子コスモス福祉会理事長

鈴木 秀雄

【資料1: 「スポーツ学(運動と健康)の理解」[第217期 神奈川県消防職員初任教育]講演資料】

【資料2: 朝日新聞2001年(平成13年)9月8日朝刊「私の視点」】

【資料3: 「社会保険」誌 第843号, pp.25-27., 2020年10月号】 認知症入所施設の家族化(Familization)に向けて

【資料4: 「レジャー・レクリエーションの視点で見る社会福祉法人の施設運営における“家族化”の意義」

日本レジャー・レクリエーション学会第50回記念大会】

I. 障がい者スポーツ指導者総論

1. スポーツの諸相……………【資料1. No. 1/5～4/5、資料2】
 - 第I編 障がい者スポーツの意義・理念 ← 演者の助言: レジャー(水総論)・レクリエーション(金魚論)・スポーツ(その金魚の身体的活動論)
2. レジャー・レクリエーション・スポーツの位置関係(スポーツ基本法^{註1)}第24条^{註2)} ……【資料1. No. 1/5の図1、図2】
 - 第III編 障がい者スポーツの推進と障がい者スポーツ指導員の参画
 - ※註1. スポーツ基本法 [法律第78条、平成23(2011)年6月]
 - ※註2. (野外活動及びスポーツ・レクリエーション活動の普及奨励) ← 第24条の見出し条文

第二十四条 国及び地方公共団体は、心身の健全な発達、生きがいのある豊かな生活の実現等のために行われるハイキング、サイクリング、キャンプ活動その他の野外活動及びスポーツとして行われるレクリエーション活動(以下この条において「スポーツ・レクリエーション活動」という。)を普及奨励するため、野外活動又はスポーツ・レクリエーション活動に係るスポーツ施設の整備、住民の交流の場となる行事の実施その他の必要な施策を講ずるよう努めなければならない。
3. 障がい者スポーツ指導員とコミュニケーションスキル
 - 第II編 障がい者スポーツ指導とコミュニケーション
4. スポーツの指導上の安全の心得と危機管理 (II.重要語群とその解釈9.の①、②、③を参照); 予知義務と回避義務
 - 第IV編 安全管理 ← ← ← [演者からの助言: ①リスクファクター、②リスクスクリーニング、③リスクマネジメント]
5. 障がい者の種別・領域とスポーツ・レクリエーションの形態 ⇒ ⇒ ①趣味化傾向形態(深まり)と②多角的嗜好形態(広がり)
 - 第V編 身体の仕組みと障がいの理解 ← ← ← [演者からの助言: 心身の構造(つくり)と機能(はたらき)]
6. スポーツの種目・特徴と形態(領域・時間・距離・得点等) ← 野球の特徴(人間が得点、守備側がボールを支配)
 - 第VI編 障がい者スポーツ指導の基礎
7. 障がいの国内外の情勢・変遷 [国際障害者年(1981年)以降]及び国内の大会
 - 第VII編 全国障害者スポーツ大会

II. 重要語群とその解釈

1. レジャーの3つの機能: ①回復機能、②発散機能、③蓄積機能)……………【資料1. No. 1/5の図1、図2及び資料4】
2. レクリエーションの5つの段階: ①くつろぎ、②気ばらし、③発達のレクリエーション、④創造的レクリエーション、⑤感覚超越的レクリエーション
3. スポーツの2つの対極: [A: ①身体運動と②運動競技] [B: ①トレーニング(手段的)と②レース・ゲーム(目的的)]
4. スポーツの定義の2分割的理解: ①定義の前半部分、②定義の後半部分 ← 本来の仕事であるか否かによる異なり
5. スポーツへの関わりの次元(タイプ): [する(訓練; イギリス型)、見る(観せる; アメリカ型)、支える(ボランティア・事業)]
6. 技能と技術の異なり (Skill & Technique); 作戦(Operation)の中にある戦略と戦術 (Strategy & Tactics)
7. 自助による運動の習慣化と共助・公助による運動習慣の社会化 8. アボケーション(Avocation)=趣味的で実益的な活動や事象
9. 国際障害者分類(ICIDH, 1980年)と国際生活機能分類(ICF, 2001年5月) ⇒ 国障年(IYDP)は1981年機能損傷、能力障害、社会的不利から心身機能と構造、活動、参加へ
10. 日常生活動作(ADL=Activities for Dairy Living); 生の3つの質(QOL=Quality of Life: ①生命の質、②生活の質、③人生の質); 個人の生きる喜び(EPL=Enjoying Personal Living)
11. 危機管理に必需な三要素(①リーダーシップ、②チームエフォート、③コミュニケーション) ⇒ ジム・ラベル 船長(アポロ13号)
12. 多くの核家族化の現状から社会における集団の家族化(Familization)に向けて……………【資料3】
13. 人間活動交流形態の三形態(①個人活動、②並行活動、③集団活動) ⇒ ①②③の交流の度合いの異なり
14. おもしろさ(秘密の発見・秘密の解き明かし)と楽しさ(交流が必需)……………【資料1. No. 1/5のII.の5】
15. ボランティアの立ち位置(「忘己利他」が結果として「もう懲りた」にならないように) ⇒ ボランティア活動は余暇の三機能の中の「蓄積機能」にあたる……………【資料1. No. 1/5の図1、図2】
16. 目的と目標(手段)の異なり⇒ある活動が手段化されるときその活動本来の楽しさおもしろさが削られる ⇒ 標的

17. 生理的必要性と心理的欲求: 健康の三要素 ⇒ 運動は、休養・栄養と異なる、人間の基礎的欲求……………【資料 1. No. 2/5】
 18. 動機づけと準備性 (Motivation & Readiness) 19. 傾聴のポイント (発信力と受信力)
 20. 気付く能力と感じる能力 (能動的と受動的) 21. 話し手・聞き手・創り手 (書き手・読み手・創り手)

III. コミュニケーションスキルを知る

1. コミュニケーションの理解

- 1) ある精神(マインド)が別の精神に影響するということ
- 2) 情報の一方的提供 (媒体) ではないということ (⇒ マスコミとマスメディア)
- 3) 共通、共感、共同、即ち、伝達事象の理解の共有であるということ
- 4) 良い・賢いコミュニケーションは傾聴のエッセンス (以下の①、②、③) が含まれているということ
 - ① すぐに否定しない、相槌が大切、② 自身の考えとアドバイスはその次に、③ 今後も話す機会を持ちましょうと伝える

2. 指導教本『障がいのある人のスポーツ指導教本』p.20 に表現されている用語の理解

- 1) アイスブレイキングとホスピタリティー ⇒ 「初めのとっかかり」と「もてなし」
- 2) インタビュー ⇒ 「互い (Inter-)」に、「見る (View)」 3) トレーニング ⇒ 目的達成のための手段
- 4) プレゼンテーション ⇒ 聞き手にプレゼントの意、接尾辞の「-tion」は、状態・状況を意味する
- 5) フィードバック ⇒ 栄養を戻す、相手に成長や気付きのきっかけを与える
- 6) 「おもしろさ」⇒ 秘密の解き明かし、秘密の発見; 「たのしさ」⇒ 事象 (人、物、自然、動物等) との交流が必需 (語としての「おもしろい」は、目の前が明るくはっきりする意味)

【鈴木 秀雄(神奈川県平塚市生まれ) 余暇教育学・体育学博士 Ph.D.のプロフィール】

- 学歴・職歴
 - 1975 年 米国フロリダ州立大学大学院修士課程修了(修士, M. S.)
 - 1977 年 米国フロリダ州立大学大学院博士課程修了(博士, Ph. D.)
 - 現 在 関東学院大学 名誉教授及び社会福祉法人磯子コスモス福祉会 理事長(特別養護老人ホーム「中原苑」等の運営)
 - 専 門 余暇教育学、体育学、レジャー・レクリエーション・スポーツ、セラピューティックレクリエーション、野外活動
 安全教育、ライフデザイン、セラピューティックエクササイズ®(← 略語は、セラエクサ®)、要介護予防運動、生活習慣病予防運動®

■ 活動・研究歴 (研究活動・社会活動・資格・役職)等

- ◆ 日本レジャー・レクリエーション学会 (JSLRS) 第 8 代会長
- ◆ アメリカ保健・体育・レクリエーション・ダンス学会連合 (AAHPERD) 終身会員
- ◆ アメリカレジャー・レクリエーション学会 (ALRA) 終身会員 ◆ 全米スポーツ・体育学会 (NASPE) 終身会員
- ◆ 日本赤十字社神奈川県支部名誉指導員 ◆ 米国赤十字社心肺蘇生 (CPR) 指導員
- ◆ 日本赤十字社水上安全法指導員 ◆ 日本赤十字社救急法指導員 ◆ 日本赤十字社幼児安全法指導員
- ◆ 国際リハビリテーション (RI) レジャー・レクリエーション・スポーツ常任委員
- ◆ 全米セラピューティックレクリエーション協会 (NTRA) マスターセラピューティックレクリエーションスペシャリスト (MTRS)
- ◆ (公社) 日本キャンプ協会 (NCA) 終身会員及びキャンプディレクター 1 級 (D1)
- ◆ 日本自然保護協会 (NACS-カ) 自然観察指導員
- ◆ (公財) 日本レクリエーション協会 (NRAJ) レクリエーションコーディネーター; ◆ (公財) 日本レクリエーション協会 (NRAJ) 福祉レクリエーション・ワーカー;
- ◆ (公財) 講道館柔道四段 ◆ (公財) 日本スポーツクラブ協会 (JSCA) 顧問 ◆ かながわバラスポーツ普及検討会座長
- ◆ 特定非営利活動法人ライフサポート機構 (LiSO) 理事長 ◆ 特定非営利活動法人神奈川県野外活動協会 (ONRAA-K) 理事長
- ◆ 特定非営利活動法人日本セラエクサ協会 (JATE) 理事長 ◆ 神奈川県キャンプ協会 (PACK) 理事長
- ◆ 特定非営利活動法人神奈川県レクリエーション協会理事 ◆ 横浜市レクリエーション連合副会長 ◆ 小田原市スポーツ推進審議会副会長
- ◆ アウトドア活動・マリン&ファミリースポーツ普及委員会委員長及び同フェア実行委員長
- ◆ 一般社団法人神奈川県障がい者スポーツ協会 (KPSA) 会長 ◆ 全国、神奈川県、横浜市、磯子区の社会福祉協議会各会長賞受賞
- ◆ 神奈川県スポーツ推進審議会委員 ◆ 小田原市スポーツ推進審議会副会長 ◆ 小田原市制 80 周年記念「教育文化功労賞」
- ◆ 日本赤十字社社長賞 (①平成 23 年 3 月 12 日及び②令和 3 年 3 月 6 日)
- ◆ 障害者スポーツ文化センター(横浜ラポール及びラポール上大岡) 指定管理者選定・評価委員会委員長
 ※平成 15(2003)年より 4 期 20 年にわたり同上の 2 つのラポール選定・評価委員長

■ 著 書

- ◆ 『七訂増補版スポーツ・体育・運動実践考 ～“至適運動のすすめ”と“生涯スポーツへの誘い”～』石橋印刷発行 2019 年 3 月
- ◆ 『セラピューティックレクリエーション』講談社 1985 年及び不昧堂刊 1995 年 ◆ 『レクリエーション指導法～理論と実践～』誠信書房 1996 年
- ◆ 『アスレティックトレーニング概論』共訳 ソニー企業、1983 年 ◆ 『キャンプを楽しくゲーム集』第 1 集～3 集ベースボールマガジン社
- ◆ 『クラブ活動に役立つスポーツ図鑑』(全 5 巻)監修 あかね書房 1997 年 ◆ 『スポーツおもしろ事典』共訳 保健同人社 1984 年
- ◆ 『大学体育理論』共著 犀書房 1985 年 ◆ 『キャンプ指導の Q&A』共著 創文企画 1986 年
- ◆ 『体力を高める四季のゲーム』共著 文教書院 1981 年 ◆ 『現代体育・スポーツ体系』第 29 巻 担当執筆 講談社 1984 年
- ◆ 『スポーツ選手のための筋力トレーニング』共訳ソニー企業 1980 年など